

自分のいいところ

勝央町立勝央北小学校 第2学年



1 教科等 特別の教科 道徳

2 主題名 自分のいいところ [A 個性の伸長]

3 ねらいと教材

(1) ねらい 自分や友だちのよいところについて考える中で、よいところが見つかるとてもうれしい気持ちになることに気づき、自分のよいところを見つけていこうとする態度を養う。

(2) 教材名 「いいところ みつけた」(出典:日本文教出版「生きる力2」)

4 主題設定の理由

(1) 指導内容について

自分のよいところを見つけることは、児童が自己肯定感を高め、将来にわたって自分のよさを発揮していくために大切なことである。しかし、この時期の児童は自分を客観視しにくい、自分のよいところを自分でつけるのは難しく、周りの人から指摘されてはじめて気づくことが多い。

本時では、やさしさや粘り強さのような内面的な自分のよいところについて自分を見つめながらワークシートに書くことで、児童が自分自身のよいところに気づくことができるようにしたい。また、教師がさまざまな場面で見つけた児童のよいところを伝え、それを認め、励ますことにより、児童が自ら新たな長所を見つけようとする態度の育成につなげたいと考える。

(2) 教材について

本教材は、自分はおとなしくてあまり人に褒められないと思っていた主人公のリエが、教師の指摘から小さい子の面倒をよくみる優しさが自分のよさであることに気づき、とてもうれしくなるという話である。

教材の中では、小さい子の面倒を見ていたために遅くなったことを、友だちにわかってもらえず、つらい思いをするという場面も描かれていて、この場面では、つらかったリエの気持ちに共感させる。その後、教師の言葉を聞いたりリエが、どんな気持ちになったかを考えさせることにより、リエの気持ちを自分事としてとらえさせる。この場面では、友だちに伝えあう活動を取り入れ友だちに話すことで、内面的なよさにも気づくことができるようにしたい。行動面に偏りがちな視点を、内面的なよさにも広げることにより、自分のよさに気づかせたり、自分のよいところについてしっかりと考えさせたりしていきたい。これらの学習活動を通して、自分のよいところに着目させ、自己についての肯定的態度を育てたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自己についての肯定的態度を育てる。＜価値的・態度的側面＞



6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと …… ★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
<導入> 1 友だちのよいところを紹介し合う。	○学級の友だちのいいところは、どんなところかな。 ・〇〇さんは、走るのが速い。 ・〇〇さんは絵が上手。	・学級の友だちのよいところを紹介することにより、自分のよいところについて考えるという方向づけをする。
じぶんのいいところは、どんなところでしょうか。		
<展開> 2 教材「いいところみつけた」を読んで話し合う。 ・ワークシートに記入 ・ペアで交流 ・全体で交流 3 自分のよいところについて考える。 ・ワークシートに記入 ・全体で交流	○1年生の荷物を持ってあげているりえさんは、どんな気持ちでしょう。 ・お世話は楽しい。 ・してあげてよかった。 ○不機嫌なしょうたくんをりえさんはどう思ったでしょう。 ・遅くなってごめんなさい。 ・いいことをしたのに、なんで。 ・自分は悪いことをしたのかな。 ◎先生の言葉を聞いて、りえさんはどんな気持ちになったでしょう。ワークシートに書きましょう。 ・先生はわかっていてくれたんだ。 ・自分のいいところは、小さい子の面倒をよくみるというところなんだ。 ・これからも、小さい子に優しくしよう。 ○あなたの「いいところ」は、どんなところですか。ワークシートに書きましょう。 ・困っている友だちがいたら、助けてあげるところ。 ・友だちに優しくできるところ。 ・時間を守って生活しているところ。 ・親切にできるところ。 ・鍵盤ハーモニカの練習をがんばっているところ。	・りえの顔絵を貼る。 ・思いやりをもって接しているりえに共感することで、りえの満足している気持ちに気づかせる。 ・しょうたにわかってもらえない悲しさや自分に自信をなくしていることに共感できるようにする。 ・先生の言葉を聞く場面絵を黒板に貼る。 ★りえの気持ちを考える中で、自分のよさに気付くことができるようにし、自己肯定的な気持ちをもつことができるようにする。 ・事前に学級活動で「いいところさがし」を行い、友だちにいいところをカードに書いてもらっておき、ここでは、そのカードを活用する。 ★自分のよいところについて考える時間を十分に確保したり、いいところカードを参考にさせたりすることで、自己肯定的な気持ちをもつことができるようにする。 ・発表者の方を見てうなずいたり、拍手をしたりして、学級全員で認められている雰囲気醸成する。 ・児童自身が自分のよいところをさらに見つけようとする態度につながるように、配慮する。
<終末> 4 教師の話の聞く。	○学校の生活の中で、先生が見つけたいいところを紹介します。	

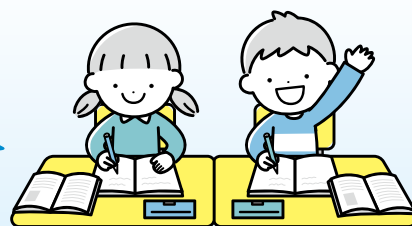
<評価の視点>

- ・登場人物の心情について考えるを通して、自分や友だちのよいところを見つけようとしている。(発表)
- ・よいところが見つかるとてもうれしい気持ちになることに気づくとともに、内面的なよさを含めた自分のよいところを考え、見つけている。(ワークシートへの記述)



わたしたちの学級や学校

勝央町立勝央北小学校 第4学年



1 教科等 特別の教科 道徳

2 主題名 わたしたちの学級や学校 [C よりよい学校生活、集団生活の充実]

3 ねらいと教材

(1)ねらい 一人一人が相手を大切にしようとすることによって、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくろうとする意欲や態度を育てる。

(2)教材名 「いじりといじめ」(出典:日本文教出版「生きる力4」)

4 主題設定の理由

(1)指導内容について

本主題は「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。」という内容項目を受けたものである。相手の気持ちを考えず何気なくやってしまういじりは、一人一人が安心して生活していくことの妨げになる。特に、いじめは絶対に許されるものではない。

また、人は社会的な存在であり、家族や学校などの様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらにおける集団と個の関係は、集団の中で一人一人が尊重されながら、主体的な参加と協力の下に集団全体が成り立ち、その質的な向上が図られるものでなければならない。

本時では、相手に対する親しみとして捉えられがちな「いじり」が相手を傷つけてしまう行為であるという認識を深めながら、相手の辛い気持ちを考え、互いに思いやり、みんなで協力し合える楽しい学級を目指そうとする心情を育てたい。

(2)教材について

本教材は、「いじり」に対して何とも思っていなかった主人公ゆうきが、「いじりといじめの違い」について考え始めることを扱った教材である。“自分や周りの人がおもしろかったら失敗をいじって笑ってよいのか”“相手が気にしている様子がなかったらいじって笑ってよいのか”“悪気のない冗談だったらいじって笑ってよいのか”という「いじり」についての視点に着目しながら、「いじって笑うことのほかに、もっとみんながよい気持ちになれる方法があるのではないか」という思考の流れをつくっていききたい。また、いじりを行っている側の個人を責めるのではなく、笑うことの質に着目しながら、仲間の大切さに気付かせていきたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる。＜価値的・態度的側面＞



6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと …… ★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
<導入> 1 本時のめあてをつかむ。	○おもしろくて、人のことを笑ってしまうことがありますか。 ・お笑い芸人の映像を見て笑うことがある。 ・おもしろいことを言われたら笑ってしまう。	・笑うことについて、児童の実態をありのままに発表させる。 ・児童の気持ちに共感しながら、学習への意欲を高める。
よりよい学級をつくるために大切なことはどんなことだろう。		
<展開> 2 教材文を読んで登場人物の気持ちについて考え話し合う。 (1) 道徳ノートに自分の考えを記入する。 (2) 近くの席で考えを交流する。 (3) 学級全体で交流する。	○「今の、笑っていいのかな。」と言ったみかさんはどんなことを考えているのでしょうか。 ・まちがいをいじって笑うのはよくない。 ・まさるくんの気持ちを考えないと。 ○げんきくんは、どう思っているのでしょうか。 ・おもしろかったからいいじゃん。 ・まさるくんは気にしていないから大丈夫。 ・みんなにうけたから、まさるくんも喜んでいるはず。 ○まさるくんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・本当はつらかった。 ・みんなに笑われなくなかった。 ・みんなにつられて仕方なく笑うしかなかった。 ◎自分がこのクラスにいる仲間だとしたら、どんな気持ちになりますか。 ・まさるくんを助けたい。 ・くり返してほしくないからげんきくんを注意したい。 ・いじって笑わないように気をつけたい。 ・いじって笑うのではなく、いい気持ちになれる方法を考えたい。	・いじりは相手を不快にさせる行為であることをおさえる。 ・げんきくんのことを責めていないことを考えさせる。 ・クラスを盛り上げようとしたが、人の失敗を笑うことについて、罪悪感をもてず、軽い受け止めしかできていないことをおさえる。 ・笑っていいことと笑ってはいけないことがあることを自分事として考えさせるようにする。 ・この集団の中で自分がどんな気持ちになるか考えさせる。 ・みかさんはげんきくんを責めていなかったことを想起させ、いじった個人を単に否定するのではなく、学級の中でなんとかしようと試みたことについて考えさせる。
<終末> 3 自己を見つめ、これからの自分について考え、道徳ノートに記入する。(数人発表)	○いじって笑うのではなく、仲間や学級のことを考えるには、どんな気持ちが必要でしょうか。 ・前向きになれるようにはげまそうとする気持ち。 ・おたがいに助け合おうとする気持ち。	・本時で学習した「よりよい学校生活、集団生活の充実」について振り返ることで、今後の実践意欲に繋ぐことができるようにする。

<評価の視点>

- ・登場人物の気持ちについて考えることを通し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくろうとしている。(道徳ノート)
- ・児童が道徳的価値の理解を自分自身と対比しながら考え、意欲的に学習に参加している。(発言・観察)



広く受け入れる心

勝央町立勝央北小学校 第6学年



1 教科等 特別の教科 道徳

2 主題名 広く受け入れる心 [B 相互理解、寛容]

3 ねらいと教材

(1) ねらい サムを憎む気持ちが消え、穏やかにサムを見つめるピエロの気持ちを考えることで、自分と異なる考えや意見や立場を尊重し、大切にしていこうとする態度を養う。

(2) 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」(出典:日本文教出版「生きる力 6」)

4 主題設定の理由

(1) 指導内容について

本主題は、「自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」という内容項目を受けたものである。自分の考えや思いを相手に伝えるときにも、自分と異なる考えや思いを受け止め、相手への理解を深めることは決して容易ではない。意見や立場を尊重することができるのは、相手のよいところを見つけ、敬意を払うことができるからである。指導にあたっては、謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できる態度を育成することが大切である。

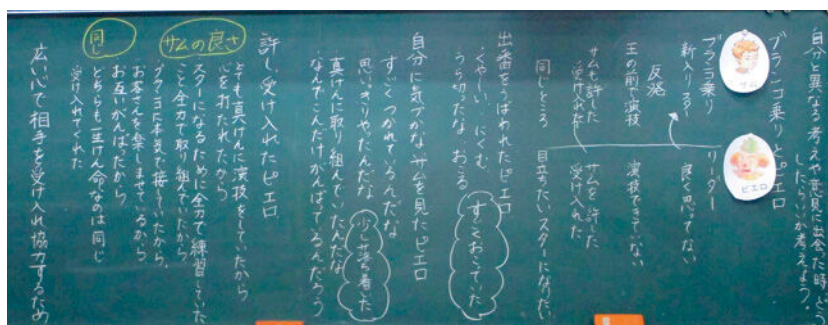
そこで、自分と異なる意見や考えをもつ相手を受け入れるときの心のもち方を考えさせることによって、相手の立場に立って、広い心で受け入れ、認めようとする心情を育てたい。

(2) 教材について

本教材は、ブランコ乗りのサムとピエロの話である。半年前にサーカス団に入団したサムの傍若無人な態度にサーカス団のリーダーであるピエロが腹を立てていた。しかし、サムは身勝手な言動をやめることなく、二人は対立していた。大王アキレスの前での出番を奪われたピエロはとても腹を立てていたが、そのピエロに気づかないほどにぐったりしているサムを見て、相手のことを理解し、憎む気持ちが消えた。そして、互いに広い心で受け入れていく。力の限り演技、疲れ果てたサムの姿を思い返すうちに憎む気持ちが消え、自己を反省しサムを受け入れた場面を中心場面とし、責めるのではなく受け入れることができたピエロの心情について話し合わせる。そうすることで、自分と違う意見や立場を広い心で尊重する態度が、良い人間関係を築くことに繋がっていくことに気付かせたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自分や他の人のよさを認め合おうとする意欲や態度を育てる。＜価値的・態度的側面＞



6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと …… ★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
<導入> 1 本時のめあてをつかむ。	○どうすれば、相手を許すことができるだろうか。 ・謝られたら。 ・悪いことをもうしなくなったら。 ・許すとかじゃなく、諦める。 ・そもそも、そこまで怒らない。	・運動会のパフォーマンスなど、日々の生活の中にある意見がぶつかる場面を思い出させて、本時のめあてにつなげる。
自分と異なる意見や考えに出会った時に大切なことはなんだろう。		
<展開> 2 教材文「ブランコ乗りとピエロ」を読んで、ピエロの気持ちを話し合う。 ・ノートに記入する ・グループで交流する ・全体で話し合う	○大王アキレスの前での出番を奪われたピエロはサムにどんな思いをもっていただしょう。 ・あんなに時間を守れと言ったのに。 ・みんなで協力することが大事なのに。 ・私の時間を奪って、憎らしい。 ○演技後自分に気づかないサムを見てピエロはどんな思いを持ったでしよう。 ・一言言ってやりたかったけど… ・サムも本気だったんだ。 ・サムは素晴らしいな。 ◎なぜピエロの憎む気持ちが消えたのだろう。サムに謝ったピエロの気持ちの中にどんな思いが浮かんだからでしよう。 ・サムも、サーカス団のために力の限り演技をしていたんだ。 ・観客を喜ばせるくらい力があるんだ。 ・サムのことを勘違いしていた。 ・これから、サーカス団と一緒に盛り上げていきたい。 ○広い心で相手を受け入れ、協力している2人から考えたこと、これまでの自分やこれからの自分について考えたことを書きましよう。 ・自分と違う意見だったとしても、同じところ、よいところを見つけていきたい。 ・相手が思っていることを受け入れていきたい。 ・自分の思いをしっかりと伝えていきたい。	・登場人物や状況を整理して板書することで、「ピエロ」の視点で考えることができるようにする。 ・出番を奪われたピエロがサムを憎む気持ちをおさえておく。 ・ステージ終わりの真っ青で疲れ果てていたサムの真剣な姿に心を打たれたピエロの気持ちをおさえておく。 ★自分と異なる考えや意見の人と対立したときのことを思い出させ、そのときにどんな気持ちになったか想像させ、自分事として考えさせるようにする。 ・自分の出番を奪われたピエロが、サムを責めるのではなく、サムの素晴らしい一面に気づき、受け入れた心情の変化を捉えさせる。 ・本時で学習した「寛容」の価値について振り返ることで、今後の実践意欲に繋ぐことができるようにする。
<終末> 3 本時について振り返り、思ったことや考えたことを書く。 4 説話を聞く。		

<評価の視点>

- ・サムとピエロの関わりについて、自分と異なる意見を受け止めること、相手を受け入れる謙虚さなどを大切にしていこうとしているか。(道徳ノート)
- ・サムを受け入れることの難しさを感じ、多面的・多角的に捉え自分事として考えたり話したりすることができたか。(発表・道徳ノート)

< 勝央町立勝央北小学校 他学年の実践例 >

小学校1年 特別の教科 道徳

- 1 主題名 みんなと なかよく
〔B 友情、信頼〕

- 2 ねらいと教材

(1)ねらい 登場人物の気持ちを考えることを通し、友達のことを思って大切にすることのよさに気づき、友達と仲よくしようとする心情を育てる。

(2)教材名 「二つの ことり」(出典:日本文教出版「いきるちから1」)

- 3 本実践と人権教育

人の痛みや気持ちを想像したり、感じたりすることができるようにする。<技能的側面>



小学校3年 特別の教科 道徳

- 1 主題名 やっぱり、やめよう
〔A 善悪の判断、自律、自由と責任〕

- 2 ねらいと教材

(1)ねらい 迷いながらも「やっぱりやめよう」と宣言した「ぼく」の気持ちを考えることから、正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を養う。

(2)教材名 「たからさがし」(出典:日本文教出版「生きる力3」)

- 3 本実践と人権教育

正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度を育てる。

<価値的・態度的側面>



小学校5年 特別の教科 道徳

- 1 主題名 広い心
〔B 相互理解、寛容〕

- 2 ねらいと教材

(1)ねらい 誰にでも失敗があることを理解したうえで、相手の立場に立って、広い心で許そうとする心情を育てる。

(2)教材名 「折れたタワー」(出典:日本文教出版「生きる力5」)

- 3 本実践と人権教育

他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てる。

<技能的側面>

